

支援方法・手立て・支援事例集

新上五島町地区特別支援教育コーディネーター一連絡協議会

B班

目錄

第一輯 毛澤東著作選編(一九四九—一九五七)

第一輯 毛澤東著作選編(一九四九—一九五七)

子どもの姿	これまでの指導	背景要因として考えられること	支援例
<p>(漢字を覚えるのが苦手な子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読み方」を覚えることが苦手 ・「書く」のに時間がかかる。 ・読み方がわからないまま写し書きをしていることが多い。 ・おおよその形が合っているため自分ではどこが間違っているか分からないことが多い。 	<p>(こんな指導をしてみてください)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何度も書けば覚えるよ」「書かなければ覚えなよ」と何度も注意する。 ・書くだけ覚えるということで、漢字の宿題プリントをたくさん出す。 ・ノートに漢字を何ページも書かせる。 ・「読み方が違うよ」と間違いを指摘する。 ・「早く読みなさい・書きなさい」と、待たずに代弁・代筆する。 ・間違えた読み方を聞いて笑ってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を「漢字」として認識するための視覚的認知や記憶の力が弱い。 (「ひらがな」「カタカナ」と違うものとして捉える力の弱さ。) ・知っている語彙の量や経験が少ない。 ・目の動きに苦手さがある。 ・手の動きに苦手さがある。 ・鉛筆の操作に苦手さがある。 ・目と手の協応動作に苦手さがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字に触れる(漢字を見る)機会を多く持つ。 ○漢字かるたを、楽しんでくり返し行うことで、漢字に対する視覚的な認知を高める。 ○漢字と共に漢字の意味しているものをイメージできるような絵や写真を添えて読みを想起しやすく、覚えやすくする。(漢字イラストカードなどもいい) ○パソコンなどを利用した視機能トレーニングで、目の動かし方をスムーズにする。 ○粘土で指先の感覚を高める。 ○昔遊びの時間(けん玉・こま・お手玉・あやとり・おはじきあて)を学級で設けて遊びをはやらせる。 ○家庭での料理の手伝い(にんじんなど皮むきなど)をさせる。 ○展開図を折って、立体をつくる。 ○足し算で漢字をつくる。 例) 糸 + 田 = 細 ○同じ部首を集める。

子どもの姿	これまでの指導	背景要因として考えられること	支援例
<p>(話すことが苦手な子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発音できない音や誤った音がある。 話し始めるのに時間がかかる。 話そうとすると緊張してしまう。・問いかけられても返事ができない。 自分の意志を表現することができない。 順序よく整理して、言葉で表現できない。 主語、述語、目的語などの整った文で話せない。 話をする時、人と目線を合わせられない。 冗談を言葉通りに受け止めてしまう。 	<p>(こんな指導をしてみてください)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「わかるように話さない。」「ちゃんと話さない。」と何度も注意する。 「発音が違うよ」と間違いを指摘する。 「早く言いなさい」と、待たずに代弁する。 間違えた文章や発音を聞いて笑ってしまう。 本人が楽しく会話をしているのに、文法や言葉の誤りをすぐに指摘する。 	<ul style="list-style-type: none"> 音や言葉聞き取ることが苦手。 言葉の理解が難しい。 文章を構成することが難しい。 話すことに自信がない。 過去に話しているときに、注意されたり笑われたりした。 発音器官の機能障害がある。 コミュニケーション経験が不足しがちな環境にいる。 他者の表情や声の調子を読み取れない。 話をつなげるための、記憶力が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉をゆっくり言う。 名前を呼んで注意をこちらに向けさせてから言う。 タブレットなどを利用した聴覚認知トレーニングをする。 絵カードやかるたなどを通して、楽しく言葉に触れる機会を多くする。 語りかけを増やす。 出来事を絵やカードのような目に見える形で示し順序よく話させる・答えやすい問いかけを心がけ、会話が続くようにする。(いつ・誰が・どこで・どうしたなど) 具体的な絵や動きを言葉と結びつけることができるようにする。 言葉を提示して、選択させ、うまく話を進める手かかりを与える。 周囲の人がじっくりと耳を傾け、受容的に話を聞くようにする。 専門機関と連携する。発達センター「あおいどり」などで発音指導を受ける。 ルールブックや SST を意図的に設定し、楽しく学習しながら相手に伝える方法を学ばせる。ソーシャルスー・トレーニングなど タブレットなどを利用した認知(視覚情報の記憶)トレーニングをする。

子どもの姿	これまでの指導	背景要因として考えられること	支援例
<p>(聞くことが苦手な子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後まで話を聞いていない。 ・人の話を聞くとき、きよろきよろと視線が動いてしまう。 ・手混ざばかりしている。 ・書くまでの作業が遅い。 ・問いかけに対してポイントがずれた答えをしてしまう。 	<p>(こんな指導をしてみてください)</p> <p>「ちゃんと聞きなさい。」「どうして聞いてないの。聞いてれば分かるでしょ」</p> <p>「よそ見しないで聞きなさい。」など注意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人の話に注目して聞き続けることが難しい。 ・聞いた話を覚えることが難しい。 ・話の内容を理解することが難しい。 ・他にやりたいことがある ・聴覚の機能障害がある。 ・コミュニケーション経験が不足しがちな環境にいる。 ・他者の表情や声の調子を読み取れない。 ・話をつなげるための、記憶力が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> ○注意を引いてから話をする。 ○ピジョントリーニングをする。 ○短く・簡潔に話す。 ○絵カードやわかるなどを通して、楽しく言葉に触れる機会を多くする。 ○語りかけを増やす。 ○ローキングメモリを育てるゲームをする。 ○出来事を絵やカードのような目に見える形で示し順序よく話をする。 ○具体的な絵や動きを言葉と結びつけることができるようにする。 ○見通しを持たせるために、手順を表示しながら話をする。 ○専門機関と連携する。発達センター「あおいとりの」などで発音指導を受ける。 ○ロールプレイやSSTを意図的に設定し、楽しく学習しながら相手の気持ちを考える方法を学ばせる。ソーシャルスゴろく・トリーニングなど ○iPadなどを利用した認知(視覚情報)の記憶) トリーニングをする。

今、この児童・生徒に
とって必要なことは
何か、どこから取り組
むか、

一人の子どもの困難を考える場合
いろいろな子どもの姿や背景要因があるけれど
1年間でできることは、限られてきます。
そんな時、目標を絞って考えることで
スモールステップで一つ一つ着実に
ステップアップすることができるとは思いませんかと考えました。
そうして取り組んだことを、事例集にまとめてみました。

事例 1

目標 今年度中にオムツがとれる (おしっこが言える)

子どもの姿	これまでの指導	背景要因として考えられること	支援例
<p>・「おしっこがしたい」と自分から言えない。</p> <p>・「した？してない？」ときかれて自分から答えられない。</p> <p>・トイレに行くのは抵抗がない。</p> <p>・全体に言うとは指示は分かっているが、個別に言うとは分かるようになってきた。</p> <p>・平仮名は読める。</p>	<p>・成功したらほめる。</p> <p>・失敗しても、「気持ち悪かったね」と共感するに留める。(叱らない)</p> <p>・個別に誘って連れていく。</p> <p>・おもしろい後でも良いので保育者に知らせるように言う。</p> <p>・トイレの流すボタンにシールを貼る。</p>	<p>・保育所にいる時間が長い(朝早く登園。夜方遅く帰る。)</p> <p>・自閉症スペクトラム傾向のため。</p> <p>・尿意が分からない。</p> <p>・尿意を伝える言葉が出ない。</p> <p>・遊んでいる途中トイレに行きたくない。(切り替えの困難さ)</p>	<p>○声かけを増やす、工夫をする。前を(生活の流れを事前に知らせ、活動の切り替えのこころ構えをさせる。)</p> <p>「●●が終わったらトイレに行こうね。」</p> <p>「公園でおもしろしたら遊ばなくなってしまうよ。」</p> <p>○尿意やおもしろしを知らせる言葉を具体的に伝える。</p> <p>○言葉をまねさせない。</p> <p>○一緒にトイレに行き、立ち方、カの入れ方を教える。</p> <p>○他の保育士と連携し、登園直後と降園直前には必ずトイレに誘う。</p>
<p>(支援計画)</p> <p>合い言葉 「トイレを楽しくおしっこバイバイ」</p>			
いつ	○活動の前後	○登園直後と降園直前	○毎日の繰り返し
どこで	○保育室で	○遊んでいる場所で	○トイレで
だれが	○担任	○保育者全員	
どのように	○全体へ	○個別に	
<p>保護者との連携</p> <p>・園と家庭で同じ対応ができるよう、場面に応じた声かけや成功例、失敗例などを具体的に伝える。</p> <p>・その時点での、ここまでの姿でOK。もう少しできてほしい等の思いを共通理解する。</p>			

事例2

目標 自分のごとを表現できるようになる。

子どもの姿	これまでの指導	背景要因として考えられること	支援例
<p>入園当初5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉が少ない。 ・発音の遅れ。 ・順番を待つのが難しい。 ・こだわりの強い。 <p>(靴下× 衣服は決まった物を着る。体操服・ズボン×)</p> <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを表現することが難しい。(痛い・こうしてほしい場面など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードを見せて問題を出す。 ・短い言葉で言葉かけ。 ・手を引き「じゅんばんこ。後ろに並ぶよ。」と伝える。 ・無理に着せない。 ・気持ちを代弁。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と関わることが少なかった。 ・早く遊びたい。 ・初めてのものに抵抗がある。 ・恥ずかしい。伝え方が分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○短い言葉かけで関わりを多く持った。 ○口だけの指示ではなく、一緒にやってみたり見本を示す。 ○家庭と連携。 ○ごっこ遊びの中で(痛い・こうしてほしい)場面を作って実際に保育者が示す。
<p>支援計画</p> <p>いつ 自由遊びの時</p> <p>どこで 保育室</p> <p>だれが 保育士</p> <p>どのように</p> <p>ままごと遊びや病院ごっこをして、痛い場面や〇〇してもらいたい場面を作り、保育士が伝え方の見本となる。</p> <p>物の貸し借り「〇〇ちゃん貸して」痛いとき「おなか痛いわ。〇〇ちゃん助けて。」困ったとき「〇〇君からおもちやとられたよ。」など</p>			
<p>保護者との連携</p> <p>○連絡帳や登園・降園時を通してできるようになったことを共有し合う。</p>			

事例3

目標 友だちの気持ちを考えることができる。

子どもの姿	これまでの指導	背景要因として考えられること	支援例
<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの気持ちを考えずに発言することが多い。 ・年下児とどう関わってよいか分からず困っていることがある。 ・玩具の取り合いになることがある ・トランプがあったとき、保育士に言われたことが理解できず、きょとんと困った表情をする。 ・知識が豊富で聞いかけにすべに反応する。 ・記憶することが得意。 ・無意識に爪やタオルケットを噛んでいることがある。 ・忘れ物が多い。 ・苦手意識を持っていることは、なかなかしようとしない。(なわとび・てつぼうなど) ・片足に重心がいきやすく、姿勢の保持が苦手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本児がされた時に置き換えながら、友だちの気持ちを一緒に考える。 ・年下児に対して優しく接するよう伝える。 ・保育士の話が入りやすいように、別室で話したり、部屋の隅の方で話をする。 ・他のことに意識が向くよう、声をかけ、口元に手がいかないようにする。 ・持ち帰る物リストを貼り視覚的に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・転園を繰り返している。(4歳で転園。5歳で転園。) ・本児中心の家庭環境。 ・母親・祖母との生活でおとなとの関わりが多い。 ・言葉での指示に時間がかかる。(話を聞いて覚えられない。クーキングメモリの弱さ) ・友だちや保育士、母親に認めてほしい気持ちがあり、寂しさや欲求不満。 ・体幹が弱い。筋力不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちの気持ちを一緒に考える。 ○年下児に優しくできたときは褒め、成功体験を増やしていく。 ○友だちの前で発表する機会を増やし、自信につなげていく。 ○ゆっくり話をしたり、好きな遊びをしたりする時間を作り、満たされた気持ちになるようにする。 ○分かりやすい言葉で伝える。 ○絵カードや写真を用いて、持ち帰る物一覧を作り確認できるようにする。 ○なわとびやマラソンなど体を動かす遊びを取り入れ、筋力アップにつなげる。 ○体幹を鍛える活動を取り入れる。
<p>(支援計画) いくつか書き出し、選んだ方法の〇にチェックを入れ実践する。</p>			
<p>いつ 月～土</p> <p>どこで 保育室で</p> <p>だれが 担任</p> <p>どのように 個別または全体で</p>	<p>一日の活動の流れをホワイトボードに掲示。友だちの前で発表する機会を増やす。</p>		
<p>保護者との連携</p> <p>○発達検査受ける。 発達センター「あおいとりの連携(母の見方が変わる。)</p> <p>○連絡ノートのやりとりや登所・降所時の直接会話で様子を伝え、保護者の不安感や心配事を減らす。</p>			

事例 4

目標 あきらめずにチャレンジすることができる。

子どもの姿	これまでの指導	背景要因として考えられること	支援例
<ul style="list-style-type: none"> できないことがあるとすぐに落ち込む。 自分の非を認めることができない。 苦手なことから逃げようとする。 相手の気持ちを考えることができない。 自分の考えを周囲に上手く伝えることができない。 全体指導では、指示がなかなか入らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 成功したらほめる。 失敗しても責めない。 本児の話を最後まで聞く。 解決方法を一緒に考える。 苦手なことの練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情緒発達の未熟さ。 精神年齢の幼さ。 今まで周囲に手厚く支援されてきた。 運動に対して苦手（特に球技）意識がある。 自分の思いを周囲に上手く伝えられないことから「どうしてみんなは分かってくれないのか」という被害妄想を起こし、さらに周囲のせいにするという悪循環が生まれている。 	<p>OTラブルが発生したときは、すぐには話を聞くことができないので、クールダウンさせて、本児が落ち着いてから話をするようにした。</p> <p>OTからのインプットが弱く、視覚優位の傾向であるので、文字やイラストを使って話をできるようにした。</p> <p>○過度な支援にならないように、本児がOTラブルをできるだけ自分の力で乗り越えられるように、時に静観するよう心掛けた。</p>
<p>支援計画</p> <p>いつ</p> <p>どこで</p> <p>だれが</p> <p>どのように</p>	<ul style="list-style-type: none"> OTラブルがあった時 別室 担任 個別に 話だけでなく文字やイラストを使って 	<ul style="list-style-type: none"> 本児が冷静になった時 特別支援学級 クールダウンさせる SSTを活用して 	<p>自立活動の時間</p>
<p>保護者との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校で起こった出来事を、学級通信等で伝える。 良くてきたことや、頑張ったことだけを伝えるのではなく、OTラブルがあったことやその後どのように解決していったか、また、本児が受け入れることができたか、できなかったかについても伝える。 校内でケース会議を開き、本児の様子について共通理解を行った後、指導についての方針を決め、保護者を含めた話し合いを持つ。 学校と保護者が同じ指導方針で本児に関われるように、細やかな意思疎通を行う。 		

事例5

目標 漢字を覚えることができる

子どもの姿	これまでの指導	背景要因として考えられること	支援例
<p>・文字が雑になり、形が整わない。 ・漢字をたくさん書いても覚えられない</p>	<p>・毎日漢字ノートで練習する。 ・夏休み・冬休みの宿題で毎日練習する。とにかく書いて練習させる。</p>	<p>・漢字は何回も書かなければならぬという思い込みから漢字嫌い。 ・基本となるパーツ(低学年の漢字)を覚えていない。 ・空間認知や図形の理解、バランス、同時処理能力(書きながら覚える、手と脳の協調)などが脳機能的に凹みがある。書いて覚えられない</p>	<p>○「読み」のチェック。2度目も読めない字は意味を教える。その漢字で例文をつくる。 ○漢字の「書き」は「部首」に着目。同じ部首を集める。3回書けなかったら初めて紙に書いて練習する。 ○1年の漢字からチェックして書けないものを洗い出す。 ○視覚認知トレーニングをする。</p>
<p>(支援計画) いくつか書き出し、選んだ方法の〇にチェックを入れ実践する。</p> <p>いつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昼休み <p>どこで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教室 <p>だれが</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任 (たまに支援コーディネーター) <p>どのように</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生の漢字プリントからテストする。そして覚えていない漢字を洗い出す。そして、覚えていない漢字のカードを作り、覚えるまで読ませる。 			
<p>保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家では、漢字ができないことにはふれない。 			

(様式)

事例

目標

子どもの姿	これまでの指導	背景要因として考えられること	支援例
<p>(支援計画) いくつか書き出し、選んだ方法の〇にチェックを入れ実践する。</p> <p>いつ だれが どこで どのように</p>			○
保護者との連携			